

令和4年度

教育功勞者功績概要

千葉県教育委員会

1 教育行政の部

浦安市教育委員会委員 宮澤 ミシェル

平成 22 年、浦安市教育委員会委員に就任し、現在に至る。プロスポーツ選手としての豊富な経験と指導者としての卓越した見識を生かし「浦安市生涯スポーツ推進計画」や「安全で適切な部活動運営の指針」の策定に当たっては、生涯スポーツ推進の重要性について助言するとともに、県や市が主催する各分野の講演会で講師を務めるなど、生涯スポーツのあり方、スポーツを通じた人間形成などについて適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元松戸市教育委員会委員 山田 達郎

平成 21 年、松戸市教育委員会委員に就任。平成 27 年から令和 3 年まで教育長職務代理者を務めた。保護者委員としての視点から子育て世代の困難や苦労の実態を的確に把握し、松戸市の教育行政への適切な反映に努めるとともに、義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律施行後初めての夜間中学校となる、松戸市立第一中学校みらい分校の開校に尽力した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

八街市教育委員会委員 並木 光男

平成 23 年、八街市教育委員会委員に就任し、現在に至る。平成 24・25 年に委員長、平成 26・28 年に委員長職務代理者を務めた。卓越した見識と豊富な経験を生かし、八街市の教育振興に尽力した。子供たちにとってより良い教育環境を提供していくことを考え、学校施設の耐震改修、空調設備の設置を実施し、教育環境の整備に取り組むほか、適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

布施学校組合教育委員会委員 硯山 よし子

平成 23 年、布施学校組合教育委員会委員に就任し、現在に至る。平成 25 年に委員長職務代理者、平成 26 年に委員長、平成 27 年に教育長職務代理者を務めた。卓越した見識と豊富な経験から、次世代を担う子どもの健全な育成と地域のより良い教育環境の整備推進のため、小学校の耐震化や空調機器の設置等に尽力した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

富津市教育委員会委員 池田 亨

平成 20 年、富津市教育委員会委員に就任。平成 22・24 年に委員長を務め、平成 28 年に退任。平成 30 年、同委員として再就任し、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を活かし、学校施設の耐震化、校舎改築、空調設備設置や I C T 教育を推進するためのタブレット端末、校務支援システムの導入を実施し、教育環境の整備に取り組んだ。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

袖ヶ浦市教育委員会委員 山口 修

平成 22 年、袖ヶ浦市教育委員会委員に就任。平成 24 年から委員長を 2 年、平成 28 年から教育長職務代理者を務め、現在に至る。教育に関する豊富な知識と経験を有し、また、教育行政だけでなく、袖ヶ浦市総合計画審議会委員としても活躍し、幅広い分野から精通した見識を活かし、適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁教育振興部長 浅尾 智康

昭和 60 年、千葉県立沼南高柳高等学校教諭。千葉大宮高等学校教諭、農林水産部農業改良課副主査、教育庁教職員課管理主事、教育総務課主査、同課副主幹、八千代市立大和田中学校教頭、教育庁教職員課主席管理主事を経て平成 27 年、八街市立八街南中学校長。その後、教育庁教職員課人事室長、教育振興部副参事、教職員課長、教育総務課長を歴任し、令和 3 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

2 学校保健の部

浦安市立美浜南小学校学校医 高橋俊宏

昭和 58 年、浦安市立美浜北小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立美浜中学校、美浜南小学校、入船中学校、美浜南幼稚園、美浜南認定こども園の学校医・園医として定期的に学校等へ赴き、園児児童生徒の健康診断、健康相談はもとより、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等、学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、浦安市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立茂原小学校学校医 渡邊道典

昭和 52 年、茂原市立茂原小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立豊田小学校医として、定期的に学校へ赴き、児童の健康診断、健康相談はもとより、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、茂原市長生郡医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立若宮小学校学校医 渡部十九六

昭和 51 年、市原市立若宮小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、学校医として、定期的に学校へ赴き、児童の健康診断、健康相談はもとより、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、市原市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立大洲中学校学校医 尾林紀雄

昭和 55 年、市川市立第八中学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立大洲中学校の学校医として、定期的に学校へ赴き、生徒の健康診断、健康相談はもとより、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、市川市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

佐倉市立臼井中学校学校医 長岡貞雄

昭和 57 年、佐倉市立臼井中学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、学校医として、定期的に学校へ赴き、生徒の健康診断、健康相談はもとより、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

君津市立周西中学校学校医 森 廣 克 忠

昭和 52 年、君津市立大和田小学校、坂田小学校、君津中学校の学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立周西中学校、周西の丘小学校の学校医として、定期的に学校へ赴き、児童生徒の健康診断、健康相談はもとより、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、君津木更津医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立打瀬中学校学校医 関 根 務

昭和 55 年、千葉市立真砂第一小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立磯辺第一小学校、磯辺第二小学校、磯辺第一中学校、磯辺第二中学校、打瀬中学校、磯辺小学校の学校医として、定期的に学校へ赴き、児童生徒の健康診断や健康相談、学校内の衛生環境整備や管理、健康の常時管理等学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、千葉市医師会理事、副会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

習志野市立大久保小学校学校歯科医 石 川 京 子

昭和 62 年、習志野市立袖ヶ浦西小学校学校歯科医に就任。以来、同市立谷津南小学校、向山小学校、大久保小学校の学校歯科医に就任し、36 年の長きにわたり定期歯科健康診断を通して児童の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。また、習志野市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立福栄小学校学校歯科医 篠 塚 光 久

昭和 60 年、市川市立福栄小学校、同市立養護学校学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、38 年の長きにわたり、歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。また、市川市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立金ヶ作小学校学校歯科医 早 川 琢 郎

昭和 60 年、松戸市立金ヶ作小学校学校歯科医に就任。以来、38 年の長きにわたり、同校の学校歯科医として、歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。また、千葉県歯科医師会理事、副会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立中央小学校学校歯科医 成川元章

昭和 57 年，四街道市立旭小学校，山梨小学校，四和小学校学校歯科医に就任。以来，中央小学校，旭小学校，四街道北中学校，四街道中学校等の学校歯科医に就任。以来，現在に至るまで，41 年の長きにわたり，歯科健康診断を行うなど，児童生徒の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。また，印旛郡市歯科医師会理事として，会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど，本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

印西市立大森小学校学校歯科医 大越学

平成 2 年，印西市立印西中学校，永治小学校の学校歯科医に就任。以来，平成 6 年，県立印旛明誠高等学校，平成 18 年，印西市立大森小学校，同市立大森幼稚園の学校歯科医に就任。以来，現在に至るまで，33 年の長きにわたり，歯科健康診断はもとより，歯科相談・口腔衛生指導を行うなど，園児児童生徒の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。また，印旛郡市歯科医師会理事および千葉県歯科医師会理事，専務理事を歴任し，会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど，本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

いすみ市立長者小学校学校歯科医 吉田繁樹

昭和 63 年，岬町立長者小学校（現いすみ市立長者小学校）学校歯科医に就任。以来，平成 12 年，同町立中根小学校（現いすみ市立中根小学校），平成 26 年，千葉県立大原高等学校学校歯科医に就任し，現在に至るまで，35 年の長きにわたり，歯科健康診断はもとより，歯科相談・口腔衛生指導を行うなど，児童生徒の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。また，夷隅郡市歯科医師会理事，専務理事，副会長を歴任し，会員に歯科保健の重要性を説くなど，本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立四街道中学校学校歯科医 小川和男

昭和 57 年，四街道市立八木原小学校，大日小学校，中央小学校，四街道中学校の学校歯科医に就任。以来，同市立千代田中学校学校歯科医に就任し，41 年の長きにわたり，歯科健康診断はもとより，歯科相談・口腔衛生指導を行うなど，児童生徒の健康保持・増進に積極的に取り組んだ。特に学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど，本県の保健教育の進展に寄与した功績は大である。

匝瑳市立豊栄小学校学校薬剤師 小関享子

昭和 55 年，匝瑳市立豊栄小学校，飯高小学校学校薬剤師に就任。以来，同市立豊和小学校，第一中学校，八日市場中央小学校等の学校薬剤師に就任し，現在に至るまで，卓越した知識と優れた技術を持ってその結果に基づき，常に児童生徒のために指導及び助言を長きにわたり行い，同市内における教育の更なる発展に大きく寄与した功績は大である。

3 芸術文化の部

(1) 個人の部

千葉県美術会常任理事 武田 司

漆工芸家の故武田武弘氏に師事し、漆工芸を学ぶ。主に日展、日本現代工芸美術展に作品を発表し、日展では平成26年、令和元年に特選。日本現代工芸美術展では平成8年、13年に入賞し、令和4年に東京都知事賞を受賞。千葉県美術展覧会（県展）では、平成5年に県美術会賞を受賞。平成7、8年は県展実行委員を、同13年以降は県展工芸部門の審査員を務める。平成18年から千葉県美術会理事、同28年から同会常任理事。県展及び県美術会の発展や後進の指導育成に尽力するなど、工芸を通じて本県の文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県美術会常任理事 齋藤 寅彦

洋画家の故玉之内満雄氏に師事し、洋画を学ぶ。主に旺玄展、千葉県立美術館主催の全国公募展「浅井忠記念賞展」に作品を発表。旺玄展では昭和55年に文部大臣奨励賞、浅井忠記念賞展では昭和59年に優秀賞を受賞。千葉県美術展覧会（県展）では、昭和52、56年と入賞を重ね、同58年には最高賞の県展賞を受賞。平成11年以降は県展洋画部門の審査員を務める。平成18年から千葉県美術会理事、同30年から同会常任理事。県展及び県美術会の発展や後進の指導育成に尽力するなど、洋画を通じて本県の文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉交響楽団協会理事長 時田 雄

平成8年に千葉交響楽団協会の理事に就任後、副理事長就任を経て、平成29年より理事長を務める。県内各地での多数の演奏活動を通し、音楽文化の高揚と普及啓発に努めるとともに、県内のアマチュアオーケストラの育成と演奏活動の円滑化に尽力した。また、副理事長に就任した平成26年以降は、毎年県が主催する千葉・県民芸術祭に参加し、同協会による室内楽フェスティバル（室内楽演奏会）の実施を通し、県民にオーケストラ演奏会の楽しさを発信するなど、本県の文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター理事長 宇野 京子

平成19年に特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター理事に就任後、平成25年より理事長を務める。病院・児童福祉施設に入所している子どもたちを対象としたワークショップの実施や、文化庁からの委託を受け、千葉県内の小学校・特別支援学校に芸術家を派遣し、講話・実技披露・実技指導を行う「芸術家の派遣事業」等を通し、子どもが文化芸術に触れることのできる環境づくりに尽力するなど、本県の文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県銃砲刀剣類登録審査委員 松田周二

平成24年より現在に至るまで、千葉県教育委員会が開催する銃砲刀剣類登録審査会において、審査委員として刀剣類の鑑定に携わっている。また、千葉県指定無形文化財「日本刀の鍛錬」の保持者として、精力的に日本刀の制作を続けている。鎌倉時代の刀の再現にこだわりながら、30年以上にわたり、和鉄の鍛錬や熱処理の方法などの研究に力を注いでおり、古名刀の技術をさらに発展させて、品格と勇壮さを兼ね備えた作品を制作している。日本刀への深い造詣に基づく刀剣類の厳正な審査により、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

千葉県文化財保護指導委員 西山太郎

平成20年から千葉県文化財保護指導委員を務め、主に山武地域の文化財の巡視にあたってきた。また、平成18年から横芝光町文化財審議会、平成20年から匝瑳市文化財審議会、平成28年から芝山町文化財審議会及び四街道市文化財審議会の委員を務め、特に横芝光町においては平成18年から現在まで17年間会長を務めている。専門分野は考古学で、遺跡への深い知識を活かした提言を行うなど、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定有形文化財所有者 白井公敏

平成9年に千葉県指定有形文化財「黒糸肩裾取威胴丸」が指定され、以来、今日に至るまで25年間、文化財所有者として当該指定文化財を守り伝えてきた。白井家は、戦国武将である長南武田氏の重要な家臣であったと伝えられている。この甲冑は、本県で最も古い時期に属する形式のもので、兜、胴ともに華美な作りが特徴である。本県においては、戦国時代から伝世している甲冑は数が少なく貴重であり、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

香取市文化財保護審議会会長 木村修

平成5年から成田市文化財審議会委員会、平成20年から香取市文化財保護審議会、平成30年から銚子市文化財審議会の委員を務め、特に香取市においては平成24年から会長を務める。その他にも香取市、銚子市の文化財保存活用地域計画作成協議会の委員を務め、文化財の保護に関する提言を行ってきた。専門分野は歴史学で、北総地域の中世から近世に関する論考や、県の歴史に関する一般書への執筆もあるなど、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

印西市芸術文化協会

平成5年の設立以来、印西市において幅広い部門の加盟団体による各種文化芸術事業を実施するとともに、主管団体として毎年「印西市民文化祭」を運営するなど、市の文化芸術の振興や次世代への継承、市民が様々な文化芸術に触れることができる機会の提供に尽力した。また、平成22年からは千葉県芸術文化団体協議会に加盟し、更に活動の幅を広げるなど、本県の文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

白井市郷土史の会

昭和58年の設立以来、39年間にわたり、白井市の歴史を学び、さらに白井市の文化、地理、民俗の研究等を通して、白井市の歴史研究等に貢献してきた。活動内容の中心は、年間約9回開催される歴史文化講座と、年1回、製作される機関誌「たいわ」の刊行である。歴史文化講座では、白井市及びその周辺地域の中世から現代にかけての歴史、文化、民俗に関する発表を行い、機関誌に会員による論文等を掲載するなど、活発な活動を続けており、本県の文化財保護への貢献は大である。

上総十二社祭り保存会

平成15年3月、千葉県指定無形民俗文化財に「上総十二社祭り」が指定され、本保存会が保持団体として認定されて依頼、伝承を続けてきた。上総十二社祭りは、玉前神社を中心とする寄合い祭りで、年に1度、玉前神社の祭神である玉依媛を中心に、諸神が集まり、海に入るというものである。現在の祭りは、毎年9月8日から14日にかけて行われており、なかでも13日の例大祭では、計5社9基の神輿が一宮町の釣ヶ崎海岸に集結する。上半身裸の男たちが神輿を担ぎ、シオフミといって波打ち際を駆け上がる様は勇壮である。近年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から祭りの休止が続いているが、保存会自体の活動は活発であり、本県の文化財保護への貢献は大である。

4 社会教育の部

(1) 個人の部

千葉県子ども会育成連合会副会長 卯 木 伊津美

平成12年に山武町杉の子子ども会に入会して以来、21年にわたり子ども会活動に携わっている。山武町、山武市において、同連絡協議会の理事、会長を務めた後、平成23年から現在に至るまで山武郡市子ども会育成連絡協議会の会長を務める。千葉県子ども会育成連合会においては、平成23年から理事、平成29年から現在に至るまで副会長を務め、特に「房総子どもかるた」の普及に尽力するなど、本県の社会教育の進展に寄与した功績は大である。

ガールスカウト千葉県連盟副連盟長 木 村 みゆき

平成6年から現在まで28年の長きにわたり、奈良県、愛知県、千葉県第10団において団のリーダーとして、活躍を続けている。日本連盟の国際交流活動で平成10年にパキスタン派遣、平成21年にインド派遣と国際理解教育に尽力した。県連盟においては、平成13年から国際委員長、平成17年からプログラム委員長を務めた後、令和3年から副連盟長に就任し、県連盟の運営に努めるなど、本県の社会教育の進展に寄与した功績は大である。

日本ボーイスカウト千葉県連盟副理事長 鵜 澤 弘 明

少年期よりスカウト活動に参加し、長じては指導者として多方面にわたり活躍している。平成13年から船橋地区副コミッショナーとして、地区内指導者の資質向上に貢献した。県連盟では、平成21年から副コミッショナー、平成25年からスカウト支援委員長、令和3年から指導者支援委員長を歴任し、特に各スカウト事業の計画・運営に尽力した。また、令和3年度より副理事長として活躍するなど、本県の社会教育の進展に寄与した功績は大である。

元千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会理事 河 村 一 夫

平成24年からいすみ市・夷隅郡視聴覚センター事務局職員に就任し、視聴覚教材や機器の貸し出し、視聴覚教育に関する相談業務など、いすみ市・夷隅郡の視聴覚教育の推進に努めた。千葉県視聴覚ライブラリー連絡協議会においては、平成24年から10年間理事を務め、特に、千葉県メディアコンクールや千葉県視聴覚メディア研究大会の運営、視聴覚担当者育成研修に尽力するなど、本県の社会教育の進展に寄与した功績は大である。

日本ボーイスカウト千葉県連盟副コミッショナー 山 下 すみ江

平成4年から現在まで30年の長きにわたり、ボーイスカウト東金第1団において各年代の隊長や団委員長を務め、指導者として活躍を続けている。また、日本連盟のAIS委員会（指導者養成委員会）副委員長として、全国の指導者訓練に携わっている。県連盟においては、平成23年から26年、平成29年から現在までの9年間にわたり、副コミッショナーとして県内各地区指導者の訓練に中心となって取り組み、指導者の養成・資質向上に尽力するなど、本県の社会教育の進展に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

八千代市立図書館

八千代市は、「地域に根ざしたサービスを行う市民にやさしい図書館」を目指し、平成 27 年に開館した中央図書館を中心とした市内 5 館で、ブックスタート事業、おはなし会、各種講座や電子書籍サービス等を実施しているほか、中央図書館では利用者向けの無料託児サービスを行っている。また、図書館資料の団体貸出や職場体験の受入等、学校等との連携を図りながら子どもが本に親しむ環境づくりが評価され、平成 25 年度に「子どもの読書活動優秀実践図書館」文部科学大臣表彰を受けるなど、八千代市並びに本県社会教育の進展に貢献した功績は大である。

千葉市若松公民館

昭和 57 年開館以来、地域社会との連携を深めながら、生涯学習の場としての役割を担いつつ、地域に貢献できる公民館を目指した取組を行ってきた。地域の人材を講師として活用した、子どもお菓子作りリーダー養成講座が第 1 回ちば講座アワードの千葉県公民館連絡協議会長賞に、同じく坂月川親子自然教室が第 3 回ちば講座アワードの優良賞を受賞した。また、講座の受講者が次の年の講座の受付や助手を務めるなど、活動の好循環ができています。さらに、新たなサークルの創設を支援するなど、千葉市並びに本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

5 学校教育の部

(1) 個人の部

ア 県立学校

千葉県立千葉西高等学校長 柴崎 弘

昭和 61 年、千葉県立野田高等学校教諭（平成 18 年から野田中央高等学校に校名変更）。銚子市立銚子西高等学校教諭（平成 20 年から銚子市立銚子高等学校に校名変更）、千葉県立佐原高等学校教諭、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立赤城青少年交流の家事業推進課企画指導専門職、さわやかちば県民プラザ副主幹、教育庁生涯学習課副主幹、船橋特別支援学校教頭、教育庁教育政策課副主幹、同主幹を経て、平成 31 年、四街道北高等学校長。その後、令和 3 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立小金高等学校長 飯塚 恵一

昭和 60 年、千葉県立松戸秋山高等学校教諭（平成 23 年から松戸向陽高等学校に校名変更）。松戸高等学校教諭、千葉東高等学校教諭、千葉大宮高等学校教諭、県土整備部河川環境課主査、同副主幹、教育庁教育政策課副主幹、同教育立県推進室推進班長、千葉大宮高等学校教頭、教育庁県立学校改革推進課副主幹、同教育政策課主幹を経て、平成 31 年、矢切特別支援学校長。その後、令和 3 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立東葛飾高等学校長 篠木 賢正

昭和 63 年、千葉県立沼南高等学校教諭。市川東高等学校教諭、教育庁教職員課管理主事、印西市立小林中学校教頭、教育庁教職員課主席管理主事、同学校安全保健課主幹、同教育政策課主幹を経て、平成 30 年、佐倉南高等学校長。その後、教育庁企画管理部副参事となり、令和 3 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立印旛明誠高等学校長 浅田 勉

昭和 60 年、千葉県立白井高等学校教諭。沼南高柳高等学校教諭、船橋芝山高等学校教諭、北総教育事務所指導主事、教育庁県立学校改革推進課副主幹、小金高等学校教頭、松戸市教育委員会副参事を経て、平成 30 年、松戸市立松戸高等学校長。その後、令和 2 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立佐倉東高等学校長 木次慎一

昭和60年、千葉県立市川南高等学校教諭。教育庁総務企画課主事、同主任主事、総務部学事課主任主事、同副主査、教育庁高校教育課管理主事、同教育総務課主査、千葉市立千葉高等学校教頭、教育庁県立学校改革推進課副主幹、北総教育事務所主席管理主事、教育庁学校安全保健課主幹、同県立学校改革推進課主幹を経て、平成29年、浦安市立見明川中学校長。その後、平成31年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立匝瑳高等学校長 小西薫

昭和61年、千葉県立市川工業高等学校教諭。船橋西高等学校教諭（平成23年から船橋啓明高等学校に校名変更）、八千代西高等学校教諭、県総合教育センター指導主事、同研究指導主事、千葉特別支援学校教頭、成田西陵高等学校教頭を経て、平成30年、習志野市立習志野高等学校長。その後、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立桜が丘特別支援学校長 西山博

昭和61年、千葉県立東金養護学校教諭。千葉養護学校教諭、千葉市立養護学校教諭、八日市場養護学校教諭（平成19年から八日市場特別支援学校に校名変更）、印旛特別支援学校教諭、桜が丘特別支援学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事、同教職員課管理主事、同人事室特別支援学校班長を経て、平成30年、船橋特別支援学校長。その後、教育庁教育総務課主幹となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立我孫子特別支援学校長 近藤明紀

昭和60年、千葉県立我孫子養護学校教諭。松戸つくし養護学校教諭、千葉大学教育学部附属養護学校教諭（平成19年から千葉大学教育学部附属特別支援学校に校名変更）、松戸特別支援学校教諭、特別支援学校流山高等学園教頭、教育庁教職員課管理主事を経て、平成28年、柏特別支援学校長。その後、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立香取特別支援学校長 保科靖宏

昭和60年、千葉県立香取養護学校教諭。富里養護学校教諭、銚子養護学校教諭、千葉盲学校教諭、印旛特別支援学校教諭、教育庁教職員課管理主事、銚子特別支援学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事を経て、平成29年、富里特別支援学校長。その後、教育庁特別支援教育課特別支援学校整備室長となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立東金特別支援学校長 唐鎌和恵

昭和60年、千葉県立夷隅養護学校教諭。袖ヶ浦養護学校教諭、夷隅養護学校教諭（平成19年から夷隅特別支援学校に校名変更）、県総合教育センター研究指導主事、教育庁南房総教育事務所指導主事、千葉南高等学校教頭、夷隅特別支援学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事、同教育課程指導室長を経て、平成31年、九十九里高等学校長。その後、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立大網白里特別支援学校長 金坂京子

昭和58年、千葉県立桜が丘養護学校寮母。桜が丘養護学校教諭、東金養護学校教諭、市原養護学校教諭、県総合教育センター研究指導主事、教育庁東上総教育事務所指導主事、東金特別支援学校教諭、睦沢町立端沢小学校教頭、教育庁教職員課管理主事、同免許班長、県総合教育センター特別支援教育部長を経て、平成31年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立市原特別支援学校長 庄司喜昭

昭和63年、千葉市立養護学校教諭。千葉県立富里養護学校教諭、長生養護学校教諭（平成19年から長生特別支援学校に校名変更）、県総合教育センター指導主事、同研究指導主事、松戸特別支援学校教頭、県総合教育センター研究指導主事を経て、平成29年、大網白里特別支援学校長。その後、県総合教育センター特別支援教育部長となり、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立船橋高等学校事務主幹 上野宏枝

昭和56年、千葉県立幕張西高等学校主事（平成8年から幕張総合高等学校に校名変更）。津田沼高等学校主事、同主任主事、国府台高等学校主任主事、同副主査、船橋法典高等学校副主査、同主査等を経て、平成26年、松戸六実高等学校事務長。その後、船橋北高等学校事務長、船橋高等学校事務長を歴任し、令和3年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立君津特別支援学校事務主幹 黒川正孝

昭和 58 年，千葉県立成田園芸高等学校主事（平成 8 年から成田西陵高等学校に校名変更）。市原高等学校主事，同主任主事，君津農林高等学校主任主事（平成 11 年から君津青葉高等学校に校名変更），君津青葉高等学校副主査，千葉高等学校副主査，同主査等を経て，平成 26 年，市原高等学校事務長。その後，市原特別支援学校事務長，教育庁南房総教育事務所総務課長を歴任し，令和 4 年から現職。この間，よく校長を補佐し，円滑な学校事務の運営に努め，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

イ 市町村立学校

八千代市立みどりが丘小学校長 宍浦重智

昭和61年、八千代市立八千代台小学校教諭。管内小学校教諭、八千代市少年自然の家指導員、八千代市教育委員会保健体育課主査、同学務課主査、八千代市立八千代台東小学校教頭、八千代市少年自然の家所長、教育庁葛南教育事務所管理主事を経て、平成29年、八千代市立新木戸小学校長。その後、教育庁葛南教育事務所管理課長、同次長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立土小学校長 梅津健志

昭和61年、野田市立宮崎小学校教諭。管内小学校教諭、柏市教育委員会指導課指導主事、柏市立柏第八小学校教頭、柏市教育委員会教育研究所統括リーダー、同指導課統括リーダー、同副参事、同指導課長を経て、平成29年、柏市立酒井根東小学校長。その後、教育庁学習指導課学力向上室主幹、同義務教育指導室主幹を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立富勢小学校長 中谷光男

昭和61年、柏市立増尾西小学校教諭。管内小学校教諭、柏市立酒井根小学校教頭。柏市教育委員会学校教育課統括リーダーを経て、平成26年、柏市立松葉第一小学校長。その後、教育庁東葛飾教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長、教育庁北総教育事務所長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別活動の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立八木原小学校長 西村隆徳

昭和60年、佐倉市立佐倉東小学校教諭。管内小学校教諭、佐倉市教育委員会佐倉市教育センター指導主事、佐倉市立西志津小学校教頭、教育庁指導課指導主事、独立行政法人千葉大学教育学部附属教員養成開発センター准教授を経て、平成30年、四街道市立四和小学校長。その後、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立佐原小学校長 八木達彦

昭和 60 年，香取郡多古町立多古第一小学校教諭。管内小学校教諭，教育庁香取地方出張所管理主事，同北総教育事務所管理主事，成田市立滑河小学校教頭，香取市立佐原小学校教頭，県総合教育センター研究指導主事，教育庁学校安全保健課指導主事を経て，平成 27 年，香取市立神南小学校長。その後，教育庁学校安全保健課主席指導主事，同安全室長，多古町立多古第一小学校長を歴任し，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，算数科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

多古町立多古第一小学校長 名上健一

昭和 61 年，香取郡下総町立名木小学校教諭。管内小学校教諭，中央児童相談所児童指導員，香取市立八都小学校教頭，教育庁北総教育事務所管理主事を経て，平成 29 年，香取市立府馬小学校長。その後，教育庁北総教育事務所主席管理主事，同香取分室長を歴任し，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

銚子市立双葉小学校長 宮内教夫

昭和 61 年，銚子市立本城小学校教諭。管内小学校教諭，教育庁教職員課管理主事，旭市立中央小学校教頭，旭市教育委員会学校教育課管理主事，教育庁北総教育事務所管理主事を経て，平成 25 年，銚子市立清水小学校長。その後，教育庁教育政策課教育広報室長，同教育総務課委員会室長，同東上総教育事務所長を歴任し，令和 2 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立茂原小学校長 古市利行

昭和 60 年，長生郡長生村立長生中学校教諭。管内中学校教諭，県内高等学校教諭，長南町立長南中学校教頭，県総合教育センター研究指導主事を経て，平成 27 年，長南町立西小学校長。その後，県総合教育センター主席研究指導主事，同カリキュラム開発部長，同研修企画部長を歴任し，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

富津市立青堀小学校長 山下秋一郎

昭和 60 年，富津市立関豊小学校教諭。管内小学校教諭，君津市教育委員会指導主事，富津市立青堀小学校教頭，教育庁教職員課管理主事を経て，平成 25 年，袖ヶ浦市立長浦小学校長。その後，県総合教育センター主席研究指導主事，教育庁南房総教育事務所管理課長，同葛南教育事務所長，同児童生徒課長を歴任し，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，道徳教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

富津市立天羽小学校長 松井小百合

昭和60年、富津市立佐貫小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁南房総教育事務所指導主事、木更津市立中郷小学校教頭、教育庁指導課指導主事を経て、平成29年、富津市立富津小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、音楽科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立八幡小学校長 唐澤利文

昭和61年、市原市立有秋西小学校教諭。管内小学校教諭、市原市教育委員会学校教育課副主査、同主査、同教職員係長、市原市立富山小学校教頭、教育庁南房総教育事務所管理主事を経て、平成27年、市原市立有秋東小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立寒川小学校長 木内克英

昭和61年、千葉市立都賀の台小学校教諭。市内小学校教諭、千葉市立泉谷小学校教頭、千葉市教育委員会指導課指導主事、同教育支援課長補佐を経て、平成30年、千葉市立有吉小学校長。その後、千葉市教育委員会教育支援課長となり、令和2年から現職。令和4年度、千葉市小中学校長会小学校長会長を務めている。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の振興に寄与した功績は大である。

習志野市立第二中学校長 内山晃男

平成3年、習志野市立第二中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁県立学校改革推進課副主幹、同特別支援教育課副主幹、習志野市立第五中学校教頭、習志野市教育委員会学校教育課管理主事、教育庁葛南教育事務所管理主事を経て、平成30年、習志野市立谷津小学校長。その後、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立第一中学校長 石原一幸

昭和60年、浦安市立入船南小学校教諭。管内小学校教諭、市川市教育委員会指導課副主幹、市川市立第七中学校教頭、同宮田小学校教頭を経て、平成29年、市川市立新浜小学校長。その後、教育庁葛南教育事務所主席指導主事となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立第二中学校長 石田清彦

昭和63年、市川市立信篤小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁生涯学習部文化課文化財センター文化財主事、市川市教育委員会企画調整課副主幹、同教育政策課副主幹、市川市立塩浜小学校教頭、市川市教育委員会教育政策課主幹を経て、平成29年、市川市立塩浜学園校長。その後、市川市教育委員会義務教育課学校安全安心対策担当室長、同学校環境調整課長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立浦安中学校長 大友隆司

平成元年、浦安市立舞浜小学校教諭。管内小学校教諭、千葉県国体・全国障害者スポーツ大会局競技式典課主査、同副主幹、浦安市立高洲北小学校教頭、浦安市教育委員会保健体育安全課長補佐、浦安市副主幹を経て、平成27年、浦安市立浦安小学校長。その後、浦安市教育委員会指導課長、同教育総務部次長、同教育総務部参事を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立北部中学校長 大館昭彦

昭和60年、流山市立八木中学校教諭。管内中学校教諭、流山市教育委員会指導課指導主事、流山市立東深井中学校教頭、教育庁東葛飾教育事務所指導主事を経て、平成27年、流山市立小山小学校長。その後、教育庁東葛飾教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、道德教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ケ谷市立鎌ケ谷中学校長 山田圭子

昭和60年、鎌ケ谷市立第二中学校教諭。管内中学校教諭、鎌ケ谷市内小中学校教頭、鎌ケ谷市教育委員会指導室長を経て、平成27年、鎌ケ谷市立第五中学校長。その後、鎌ケ谷市教育委員会学校教育課長、教育庁東葛飾教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和3年から現職。令和4年度から東葛飾地方小中学校長会長。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ヶ谷市立第二中学校長 飯田 卓

昭和 60 年、流山市立八木中学校教諭。鎌ヶ谷市内中学校教諭，同市内小中学校教頭を経て，平成 25 年，鎌ヶ谷市立第五中学校長。その後，平成 27 年から教育庁学校安全保健課保健班長，同体育課学校体育班長を歴任し，平成 31 年から現職。令和 4 年度，鎌ヶ谷市小中学校校長会長及び千葉県小中学校体育連盟副会長。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，学校安全教育及び体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立公津の杜中学校長 寒川 晃士

昭和 61 年，佐倉市立志津中学校教諭。管内中学校教諭，教育庁印旛地方出張所指導主事，成田市教育委員会教育指導課指導主事，同学務課管理主事，成田市立成田中学校教頭，成田市教育委員会学務課主幹，同副参事，教育庁北総教育事務所指導主事を経て，平成 28 年，成田市立玉造中学校長。その後，教育庁北総教育事務所主席指導主事，同指導室長を歴任し，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，英語科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立四街道中学校長 櫻井 比呂樹

昭和 61 年，四街道市立四街道中学校教諭。管内中学校教諭，四街道市教育委員会学校教育課指導主事，四街道市青少年育成センター副主幹，管内小中学校教諭，四街道市立四街道中学校教頭，教育庁北総教育事務所管理主事を経て，平成 26 年，四街道市立旭中学校長。その後，県総合教育センター研修企画部主席研究指導主事，教育庁北総教育事務所管理課長，同次長，教育庁東葛飾教育事務所長，県総合教育センター所長を歴任し，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

銚子市立第一中学校長 岡田 幸太郎

昭和 62 年，銚子市立第一中学校教諭。管内中学校教諭，教育庁指導課指導主事，銚子市立第四中学校教頭，教育庁北総教育事務所管理主事を経て，平成 27 年，銚子市立豊里小学校長。その後，銚子市教育委員会学校教育課長，教育庁北総教育事務所管理課長，同次長を歴任し，令和 2 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立東金中学校長 今井清仁

昭和60年、山武郡大網白里町立大網中学校教諭。県内中学校教諭、県立千葉高等学校教諭、県立千葉中学校教諭、東金市立東金中学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事、同指導主事を経て、平成28年、芝山町立芝山小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市立増穂中学校長 川野佳代子

昭和63年、船橋市立大穴中学校教諭。県内中学校教諭、市原市立養老小学校教頭、大網白里町立白里中学校教頭、県総合教育センター研究指導主事を経て、平成28年、山武市立大平小学校長。その後、県子どもと親のサポートセンター教育相談部長となり、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立茂原中学校長 永島謙

昭和61年、茂原市立南中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁教職員課管理主事、睦沢町立土睦小学校教頭、教育庁教育総務課副主幹を経て、平成24年、茂原市立西陵中学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長、教育庁南房総教育事務所長、現代産業科学館長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立本納中学校長 山崎文彦

昭和61年、茂原市立本納中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁東上総教育事務所指導主事、長生村立長生中学校教頭、長生村教育委員会学校教育課主幹を経て、平成30年、長生村立長生中学校長。その後、長生村教育委員会子ども教育課事務局長となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

いすみ市立大原中学校長 林真一郎

昭和60年、夷隅郡御宿町立御宿中学校教諭。管内中学校教諭、勝浦市立勝浦中学校教頭、教育庁東上総教育事務所指導主事を経て、平成29年、東金市立丘山小学校長。その後、いすみ市教育委員会学校教育課長となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大多喜町立大多喜中学校長 鶴岡利明

昭和62年、夷隅郡大多喜町立西中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁指導課指導主事、大多喜町立大多喜小学校教頭、大多喜町教育委員会教育課主査を経て、平成28年、大多喜町立西中学校長。その後、教育庁学習指導課主席指導主事、同主幹、同義務教育指導室長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

南房総市立嶺南中学校長 遠藤忠

昭和61年、市原市立八幡中学校教諭。管内中学校教諭、県立高等学校教諭、鴨川市立鴨川中学校教頭を経て、平成29年、南房総市立三芳小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所安房分室長となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鋸南町立鋸南中学校長 酒井純

昭和61年、館山市立房南中学校教諭。管内中学校教諭、国立中央青年の家事業課専門職員、教育庁南房総教育事務所社会教育主事、同管理主事、鴨川市立鴨川中学校教頭、教育庁南房総教育事務所管理主事を経て、平成26年、館山市立西岬小学校長。その後、県子どもと親のサポートセンター教育相談部長、教育庁南房総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長を歴任し、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立五井中学校長 佐藤文美

昭和61年、市原市立八幡東中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁指導課指導主事、市原市立若葉小学校教頭、市原市教育委員会学校教育課副主幹を経て、平成26年、市原市立海上小学校長。その後、市原市立市西小学校長、市原市教育委員会指導課長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立葛城中学校長 鎌野繁

昭和60年、千葉市立加曽利中学校教諭。市内中学校教諭、千葉市教育委員会保健体育課指導主事、千葉市立幕張中学校教頭、同花園中学校教頭を経て、平成29年、千葉市立扇田小学校長。その後、こども未来局こども未来部健全育成課長となり、令和2年から現職。令和4年度千葉市小中学校長会中学校長会長を務めている。この間、学校経営及び教育行政に示した卓越した識見と指導力は高く評価されている。特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の振興に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

千葉県立泉高等学校

昭和 54 年開校。以来、「誠実・忍耐・努力」の校訓をもとに、社会で活躍できる人材の育成を目指し、平成 24 年度からは「地域連携アクティブスクール」として、地域の教育力を活用しながら、生徒一人一人の個性や適性に応じたキャリア教育を実現するため、組織的・系統的な取組を行った。「学び直し」と「実践的なキャリア教育」を柱とし、生徒が将来に向け、社会的・職業的に自立することを目指した実践を行っている。令和 3 年度第 14 回キャリア教育優良団体等文部科学大臣賞を受賞する等、その教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立松戸向陽高等学校

平成 23 年、県立松戸矢切高等学校と県立松戸秋山高等学校との統合により開校。以来、千葉県で唯一の福祉に関する専門学科である福祉教養科を設置し、福祉コース選択者には介護職員初任者研修修了証明書が授与される教育課程を編成する等、特色ある教育を展開している。令和 2・3 年度に国立教育政策研究所「教育課程研究指定事業（福祉）」の指定を受け、介護における教育プログラムの開発と研究に取り組み、また、令和 3 年度の介護福祉士国家試験において合格率 100%を達成する等、その教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立仁戸名特別支援学校

昭和 52 年、国立千葉東病院内に千葉県立仁戸名養護学校として開校。以来、千葉県における病弱教育の充実発展に努めてきた。平成 26・27 年度に千葉県教育委員会の研究指定を受け、「精神疾患等の障害のある児童生徒に対する支援指導」についてまとめた。また、平成 30 年度には、「特色ある道徳教育推進校」の指定を受け、道徳授業の実践を広めた。さらに、病気療養児に対する ICT の利活用を推進し、令和元年度より出場の「ロボットプログラミング選手権全国大会（病弱教育部門）」では、これまで 2 回優勝するなど、これらの教育実践の評価は高く、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

平成 24 年、知的障害のある生徒を対象にした、県内 2 校目の高等部単独の特別支援学校として開校。地域と連携した「デュアルシステム（働きながら学ぶ取組）」を導入し、キャリア教育及び職業教育の充実に努めてきた。平成 30 年から令和 2 年度まで、千葉県教育委員会の「障害者の生涯学習支援」の研究指定を受け、卒業後の将来を見据えた「学び」の充実を図った。さらに、令和 3 年度からはコミュニティ・スクールを導入し、障害者の生涯学習を支援する特別支援学校の先進校として役割を果たしている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ヶ谷市立南部小学校

昭和40年開校。以来、福祉教育、赤十字活動に力を入れ取り組んできた。令和3年度に文部科学省から、学校図書館総合推進地域・学校図書館推進協力校の中心校に委託され、事業「学校図書館は学びのテーマパーク」を展開した。本事業では、学校図書館の読書センター、学習センター及び情報センターとしての機能強化による活性化や、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を踏まえた学習図書館の新たなモデルの構築等を図り、学校図書館活用の推進につなげた。学校と関係機関、地域が連携した実践的な取組により成果を上げており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立新島小学校

明治9年開校の香取市立湖東小学校及び同34年開校の同新島小学校を平成27年に統合し開校。以来、家庭・地域との連携を密にしながら教育活動を推進している。平成30年度に千葉県教育委員会「オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受けた。オリパラ教育を通して、学年の発達段階に応じて4つのプロジェクトに取り組み、主体的に学び他者理解を深める児童の育成を図るなど、大きな成果を上げている。また、地域との連携、アスリートや姉妹都市の小学校との交流などを積極的に取り入れるなど、児童の意欲を一層高める実践に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立鶯嶺小学校

昭和49年開校。以来、社会の変化に自ら対応できる、健康で豊かな心を持ち、確かな学力を身につけた、たくましい実践力のある子どもの育成に努め、成果を上げてきた。平成28年度「山武教育研究会体育部会東金地区ブロック体育研究拠点校」の指定を受け、平成28・29年度「地域における食育指導推進事業」における食育指導推進拠点校、平成29年度千葉県教育研究会第52回千葉県小・中学校音楽教育研究大会会場校として授業公開し、研究推進に寄与した。また、令和3・4年度には「ちばっ子の学び変革推進事業」検証協力校に指定されるなど、これらの教育実践は高く評価され、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

木更津市立東清小学校

明治6年開校。以来、地域と共に児童の健全育成に努めている。平成23年度からは小規模特認校として小規模校の特性を生かした教育を推進している。令和2・3年度「NIE実践校」として千葉県NIE推進協議会からの指定を受け、『新聞にしたしもう！～「新聞を活用した授業づくり」をめざして～』を研究主題として実践を積み重ねてきた。新聞記者を招いての出前授業や「新聞切り抜きコンテスト」への出品と入賞、児童の意見文を新聞に投稿して掲載されるなど、新聞を教育に取り入れるこれらの実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立おゆみ野南小学校

平成 17 年開校。以来、精力的に研究に取り組み実績を上げている。平成 24・25 年度に千葉市教育委員会「教育課程（国語，算数，社会，理科，生活）」，令和元・2 年度に千葉市教育委員会「学習指導（生活科・総合的な学習の時間）」の研究指定を受け，大きな成果を上げた。特に令和 2 年度は，全国・関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会より指定を受け，「地域に生きる 地域を誇る 児童の育成」を研究主題に設定し，その取組の成果を全国に発信した。これらの教育実践は高く評価されており，本県教育の進展に寄与した功績は大きい。

八千代市立睦中学校

昭和 22 年開校。以来，市や県の指定を受け，学習指導について先進的な研究を行ってきた。平成 20 年度から現在まで「対話的な学習」の研究に取り組み，「学び合い」を核とした学校教育を実践し，大きな成果を上げている。平成 23 年度から 3 年間，国立教育政策研究所「学習指導実践研究協力校」の研究指定を受け，「ききあい・つなぎあい・学びあう～対話的コミュニケーションによる協同学習の創造～」を研究主題に平成 25・26 年度に公開研究会を行った。また，シンガポールヒルグローブ中学校との交流を行い，学校をあげた国際教育を推進するなど，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立船橋中学校

昭和 22 年開校。以来，『知』自ら学び自ら考える生徒の育成，『徳』豊かな徳性を持ち，強い意志で正しく行動できる生徒の育成，『体』健康で活力のある生徒の育成」を目指し，教育活動に邁進している。教育研究の分野においては，平成 30 年度から 3 年間，市教育委員会の研究指定を受け，研究主題を「『学びの質を深める，主体的で対話的な体育学習の在り方』～互いに認め合い，自己表現できる生徒の育成～」とし，対話的な学びから生まれる「学びの質の深まり」の実現を目指して授業改善に取り組んだ。これらの研究や実践は広く市内外に還元され，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立古和釜中学校

昭和 47 年開校。以来，「生徒一人ひとりの個性を生かし 可能性を最大限に伸ばし 生きる力を育てる」を学校教育目標に教育活動を行っている。平成 27 年度から 2 期 6 年間，市教育委員会の研究指定を受け，「基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，自ら進んで学習に取り組む生徒の育成～各教科における ICT を活用した授業づくり～」を研究主題に，令和 2 年度に研究公開を行った。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を通じ，各教科における資質・能力の育成のための ICT 機器の効果的な活用について研究の成果をまとめた。この実践は広く市内外に還元され，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

旭市立第二中学校

昭和 35 年開校。以来、地域の中心となり、先進的な教育実践に取り組み、研究実績を上げてきた。平成 30 年度から令和 3 年度まで千葉県教育委員会「オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受け、スポーツプロジェクト、おもてなしプロジェクト、心のバリアフリープロジェクトを積極的に実践し、大きな成果を上げた。さらに、オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、ドイツ連邦共和国とザンビア共和国の学校とオンラインを利用した国際交流活動を継続して行っている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

睦沢町立睦沢中学校

昭和 42 年開校。以来、豊かな人間力や社会力を身に付けた生徒の育成に取り組み、大きな成果を上げてきた。平成 29 年度は「確かな学びの早道『読書』事業」を通して、図書館利用の推進を図り、親しみやすい学校図書館の環境整備に努め、成果を県内に還元した。令和元・2 年度に千葉県教育委員会「特色ある道徳教育推進校（兼 心の教育推進キャンペーン実施校）」の指定を受け、令和 2 年度は「千葉県学校保健研修会」で実践発表するなど、これらの教育実践は高く評価されており、本県の教育の進展に寄与した功績は大である。

いすみ市立国吉中学校

昭和 22 年開校。以来、学校安全や生徒指導、特別支援教育、P T A など様々な研究に取り組んできた。近年では、平成 27 年度に「心の教育推進キャンペーン」で道徳の時間を保護者や地域に公開し、心の教育啓発ポスターを制作した。平成 27 年度から平成 29 年度は、千葉県教育委員会「福祉教育推進校」の指定を受け、平成 30 年度には「確かな学びの早道『読書』事業」の推進校として、テーマ学習において書籍を効果的に活用し学習に取り組むなど、読書指導の充実を図った。また、令和 3・4 年度は、千葉県教育委員会「学校保健」の指定を受けるなど、これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立稲毛高等学校附属中学校

平成 19 年開校。以来、高校の附属中学校として高校との連携を深めながら、国際社会の一員として自ら発信・行動できるグローバル・リーダーの育成を目指し、精力的に研究に取り組み実績を上げている。平成 25 年度に文部科学省「学力把握実践研究協力校」の指定、令和元年度から令和 3 年度まで文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受け、6 年間一貫の体系的な探究活動を実践している。これらの取組は、多くの関係者に注目され、本県教育の進展に寄与した功績は大きい。